社会資本総合整備計画　　事後評価書

令和07年09月10日

計画の名称	安全・安心で快適な中心市街地のまちづくり		
計画の期間	平成３１年度　～　令和０５年度　(5年間)	重点配分対象の該当	○
交付対象	野田市		
計画の目標	野田市の交流の拠点となる中心市街地のまちづくりを実現するため、安全・安心で快適な市街地整備を推進する。 特に、野田市駅については、東武野田線連続立体交差事業と一体となった土地区画整理事業、街路事業等により都市基盤整備を推進する。 これによって、中心市街地にふさわしい、商業機能や各種の都市機能等が立地する条件づくりをめざす。		

全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）	1,615	A	1,615	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H31当初		R5末
1	野田市駅西地区において、駅前広場及び都市計画道路等の整備を進めることで、地区内における歩行者通行量を増加させる。（10,099人→10,323人）			
	交通結節点となる駅前広場等を整備し、交通拠点機能の向上した効果を評価するため、地区内における歩行者通行量を従前と従後で比較する。	10099人	人	10323人

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

案件番号：　0000690954

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別１	種別２	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市区町村名／港湾・地区名	事業実施期間（年度） H31	R02	R03	R04	R05	全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
市街地整備事業	A13-001	市街地	一般	野田市	直接	野田市	－	－	野田市駅西地区	区画整理　A＝6.0ha	野田市	■	■	■	■	■	1,615		－
											小計						1,615		
											合計						1,615		

案件番号：　0000690954

事　後　評　価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
野田市担当部局にて評価を実施する。	令和７年度
	公表の方法 野田市ホームページにて公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・野田市駅西地区では、地形や排水の状況から、下流である地区北側から南側へ整備を進めている。野田市駅前線の一部及び野田市駅前広場が共用開始され、駅利用者の利便性が向上した。また、都市計画道路の整備整備用地の確保のための物件移転が進捗した。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	・野田市駅西地区では、地区内の宅地造成が進捗し、一部仮換地の使用収益が開始される中で、市民のニーズを踏まえた、将来のまちづくり構想を地権者と一体となり具体化している段階である。

○特記事項（今後の方針等）

・野田市駅西地区では、引き続き移転補償及び工事の進捗を図り、早期に県道野田牛久線を整備完了し野田市駅前線と接続する。
・なお、野田市駅西土地区画整理事業の進捗状況を鑑み、令和７年３月に事業計画変更を行っており、事業期間を令和１２年度まで延伸している。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	野田市駅西地区において、駅前広場及び都市計画道路等の整備を進めることで、地区内における歩行者通行量を増加させる。（10,099人→10,323人）		
	最　終 目標値	10323人	野田市駅前線の一部及び野田市駅前広場が共用され、駅利用者の利便性が向上した一方、計画期間に社会情勢が大きく変化したことや、整備に伴うにぎわいの創出に期間を要していることから、地区内の歩行者通行量が当初の目標を達成できなかったと考えられる。
	最　終 実績値	8708人	